

Pay Pay (ペイ・ペイ)

加藤 誓 (ちかい)

スマホで支払いが出来る PayPay を導入した。セブン銀行 (セブンイレブン ATM) で店員さんに教えてもらい 2 万円入金した。その場でお茶を買い支払い方法を覚えた。



まずスマホの PayPay の画面を開き「支払う」のボタンを押す。

次に店に表示してある PayPay の QR コードをスマホに入力する。

出来たら「次へ」のボタンを押す。すると、店員さんがその画面をバーコードスキャナーをあて、ピッと鳴って支払い額が表示され終了した。

現金払いの際出るお釣りの小銭もなくスマートに買い物ができると思った。

そこで、いつもの「酒の量販店」で使ってみた。店に表示してある「QR コードの入力をする」

「次へのボタンを押す」まではセブンイレブンと同じである。そこからが大変なのである。

後ろにお客さんが並んだ。別の店員さんが「そちらの方、こちらのレジにどうぞ！」と案内した。

話は私のスマホに戻るが、店員さんが「ここをクリックしてください」

すると、支払い 0 円の画面。次に買った商品金額のレジ画面を指さし

「4,250 円と入力して下さい」「入りましたね。次に検索を押して下さい」

「どこ?」「この虫メガネマーク!」終わった。と思ったら、

店員さんがノートを持ってきて、私のスマホ画面から金額と

その決済番号を記入するではないか!! 次のお客さんを別のレジに案内した理由がわかった。

ノートへの記載は最近見たことがない。江戸時代に逆戻り?

そこで篠島の船頭さんの話を思い出した。



「島の中では、財布は要らない。どの店も、もっていくで!

ごちそうさん! で終わり。支払いは盆暮れのみ」ノートに金額を付ける店の手間のみで、

お客さんは完全なキャッシュレスである。篠島とか江戸時代の方がはるかに便利である。

PayPay での支払い方法が色々あることに気付き、暇な私は、あちこちの店で小物を買って調べることにした。

あるスーパーマーケットは、ノート記入こそないものの酒屋とほぼ同じで、

自分で金額を入力しなければならない。これでは、レジの流れが詰まって

しまう。次に、ドラッグストアにいった。PayPay の支払い画面だけで良い。

電子決済専用のお店のスマホがあり、それで、私の支払い画面をピッ! 終り。

領収書にスマホ決済の文字。次に電器量販店にいった。

もっと簡単でバーコードスキャナーで画面をピッ。終り。

領収書にはモバイルバーコード売上票の文字。

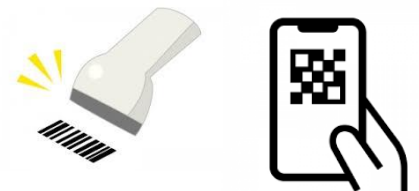
セブンイレブンと競争相手のファミリーマートが一番進んでいた。

ピッで終わり。領収書に特別の記載もない。

酒屋は現金だとポイントが付くが、PayPay 支払いだと付かないとのこと。

支払いの際、店員さんの指示に従わなければならないおサイフケータイや

〇〇Pay などモバイル決済は誠に面倒なものだ。



お客さんには、昔の方が優しかったかも!